

第2回包装近未来シンポジウム

— グローバル時代における次世代包装戦略 —

- 開催日：平成27年3月11日(水)
- 会場：公益社団法人日本包装技術協会 会議室
- 主催：公益社団法人日本包装技術協会

開催にあたって

近年、グローバル化というよりむしろグローバル時代に突入し、ヒト・モノ・サービスの交流はますます深化しつつあります。中でもモノ作りを取巻く急激な環境の変化に伴って、包装分野においても、これからの社会に対してどのような技術の開発が必要とされ、期待されるのか等、次世代包装に対する適切な対応が求められます。

このような状況を鑑み、今回もまた包装に関連したいろいろな分野からの専門の方々をお迎えし、“次世代包装”に焦点を当てたシンポジウムを開催致します。

本シンポジウムが、次世代包装戦略を考える機会となり、その取組みへの指針や対策等に役立って頂ければ幸いです。

講演者・パネリストの紹介

■ 國分 俊史 氏

デロイト トーマツ コンサルティング(株)
グローバルマネジメントインスティテュート パートナー
シンクタンク、IT企業社長室、A.T. カーニーのプリシ
シナルを経てデロイトトーマツグループの産業創造戦略機
能であるGMIIに参画。社会課題起点で作られる国際ルール
に対し、受身ではなくルールを作る側へ回って社会課題解
決をリードしながらルールを梃子に成長市場を作り出せる
よう、世界各国の政治家、官庁、研究機関と連携した日本
企業の支援実績多数
有資格・著書 寄稿：サステナビリティ戦略 ハーバード
ビジネスレビューオンライン
共著：「最強の業務改革」、「最強のコスト削減」東洋経済
新報社

■ 住本 充弘 氏 (企画委員)

住本技術士事務所 所長
2004年1月 大日本印刷(株)を定年退職し、以後コンサルタン
ト活動に入る。世界の包装展視察や世界の企業の包装コンサル
タント活動や国内企業のコンサルタント活動を続けている。
日本技術士会会員、技術士包装物流グループ会員、日本包装
学会会員、日本包装コンサルタント協会会員、日本包装管理
士会会員
技術士(経営工学)、包装管理士、業界誌に執筆多数

■ 八木野 徹 氏

(株)クラウン・パッケージ
社長付・研究開発室 室長 兼 全社デザイン統括
1987年 日本大学 文理学部 卒業
1987年 (株)クラウン・パッケージ入社
2002年 同社 東京事業所 デザイン課長
2004年 同社 全社営業推進部
2008年 現職
包装専士

■ 太田 進 氏

(株)明治 研究企画部 参与
1977年 旧明治乳業(株) 入社
1981年 本社生産部技術課(当時)に配属
以来、乳製品を中心とする食品包装の設計・開発業
務に約30年間従事
2014年9月 定年退職し現在に至る
包装専士、包装管理士

■ 戸谷 幹夫 氏

トタニ技研工業(株) 代表取締役社長
1971年 京都大学工学部精密工学科卒
1973年 京都大学工学部修士課程修了
1976年 京都大学工学部博士課程単位取得満期退学
システム制御理論の研究
1976年 トタニ技研工業(株)入社
1978年 機械振興協会第9回自動化機械開発賞受賞
業界初マイコン制御機開発
1994年 京都産業技術振興財団「京都中小企業優秀技術者
賞」受賞
2014年 京都産業21「京都中小企業優秀技術者賞」受賞

■ 後藤 敏彦 氏 (企画委員)

NPO法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事
1964年東京大学法学部卒業
環境監査研究会代表幹事、サステナビリティ・コミュニケー
ション・ネットワーク(NSC)代表幹事、社会的責任投資フ
ォーラム理事・最高顧問、グローバル・コンパクト・ジャパ
ンネットワーク理事、環境経営学会会長、地球システム・倫
理学会(常任理事)、環境管理規格審議委員会・EPE小委員
会委員・14005WG委員、等
著書：「サステナビリティと本質的CSR」(2009、共著監修三
和書籍)、「環境持続可能な経済システム」(2010、共著、
勁草書房)等

■ 有田 俊雄 氏 (企画委員)

(株)パッケージング・ストラテジー・ジャパン 取締役社長
1956年 東京大学工学部応用化学科卒業
日本パルプ工業(株)(現王子製紙(株))、ダイヤパッケー
ジング(株)(現三菱商事パッケージング(株))を経て、
1997年～ パッケージング・ストラテジー日本代表
2007年4月 (株)パッケージング・ストラテジー・ジャパンを
設立、取締役社長
技術士・包装管理士 2005年「米国包装功労賞
(包装殿堂)」受賞
著書：「包装“国際化”宣言」日報(2000)、
〔共著〕“Japan Packaging Innovations: Technology
and Industry Report”(英文：Packaging
Strategies, 2005)
〔定期刊行物〕Packaging Strategies Newsletter(日本
語版)

プログラム

時間	テーマ	講演者
10:00 10:50	<p>「社会課題起点のルール形成の動向とパッケージ業界への影響シナリオ」 CO₂問題に加えて、これから国際ルールが形成される可能性が高い水問題、フードロス問題について、グローバル大手の小売や消費財メーカー、パッケージ企業がどのような動きを開始しており、そうした動きの先にあるルール形成を梃子にした市場形成のシナリオを共有する。そのうえで、パッケージ業界が今後も成長を続けていくうえで対応が不可欠になるとされる製品とサプライチェーンにおける抜本的な改革テーマを示し、この改革が引き金となって変わってくる業界内の戦い方の変化を示す。</p> <p>最後に、こうした動きをグローバル市場での成長機会に変えていくためにデロイトが取り組んでいる政府との連携活動を紹介し、各社が活かせるポイントを解説する。</p>	<p>デロイト トーマツ コンサルティング株式会社 グローバルマネジメント インスティテュート パートナー</p> <p>國分 俊史 氏</p>
11:00 11:50	<p>「注目の次世代包装技術 ～パーソナル対応及びグローバル展開対応の面から～」</p> <p>日本の包装業界は、国内対応と輸出品包装としての海外対応とが重要である。また、今後重要なパーソナル対応にどう関わるかが問われる。世界で次々と開発・実用化がされる中で、gas-injection-technology (充填殺菌技術)、double-sterile barrier packaging (医療器具包装)、偽造防止技術、易開封技術、Touchcode ink technology (情報提供)、人目を引くパッケージ形状、ロングライフ化技術、グラフィックデザイン・パッケージ形態と店頭効果、調理対応パッケージ、インクジェット・プリンタブルエレクトロニクス等、具体的事例を挙げて動向を説明する。</p>	<p>住本技術士事務所 所長</p> <p>住本 充弘 氏</p>
13:00 13:45	<p>「小売業店舗での効率とパッケージ ～海外におけるシェルフレディパッケージ事例紹介～」</p> <p>2005年頃ヨーロッパで開発され、物流革命を起こしたシェルフレディパッケージ(SRP)、これは「即陳包装」として、売るために必要な「効率」追求したパッケージであり、ヨーロッパ、アメリカで様々な工夫が施され、進化が進んでいる。近年、日本においても取り組みが本格化し、色々な形状のシェルフレディパッケージ(SRP)が店頭で見られるようになって来ている。</p> <p>今回は、日本の先を行く海外の事例を紹介する</p>	<p>株式会社 クラウン・パッケージ 社長付研究開発室 室長 兼 全社デザイン統括</p> <p>八木野 徹 氏</p>

企画委員

本シンポジウムは下記企画委員の皆様のご協力により開催しております。

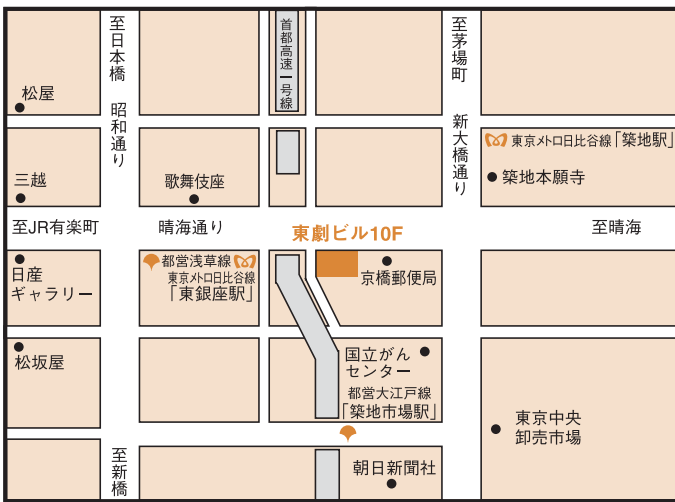
- 後藤 敏彦 氏 NPO法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事 (その他NPO代表 委員多数)
- 有田 俊雄 氏 (株)パッケージング・ストラテジー・ジャパン 取締役社長
- 住本 充弘 氏 住本技術士事務所 所長

時 間	テ ー マ	講 演 者
13:50 14:35	<p>「トタニ技研工業(株)における海外戦略 ～製袋機メーカーから見た袋の発展の歴史と 今後の世界のパウチの動向～」</p> <p>トタニ技研工業(株)の概要、歴史と製袋機開発の歩みと、モノ作りの原点、経営姿勢、新技術の紹介、リアルタイムシャー制御、レトルト高速製袋機、BoxPouchなどプリメードパウチ製袋の優位性及び世界の袋の動向（欧州、米国、アジア市場の特徴など交えながら）FFSからプリメード充填機への流れなどをお話する。</p>	<p>トタニ技研工業株式会社 代表取締役社長 戸谷 幹夫 氏</p>
14:40 15:30	<p>「グローバル時代における包装開発について」</p> <p>わが国の食品産業は、食を通じて健康で豊かな生活を提供するために重要な役割を担い、農林水産物の最大の需要者として経済発展に寄与した。</p> <p>しかしながら、食品産業を取り巻く環境は刻一刻と変化しており、少子高齢化による国内市場の縮小、原材料やエネルギー価格の変動、円安、消費税増税など企業の持続的な成長を阻害する要因が多い。</p> <p>このような状況下で活路を見出すため、海外展開を図る企業が増加しているが、食品企業の海外進出には、文化、嗜好、商習慣や流通環境の違いなど、克服すべき課題が多い。そこで国内食品産業の現状を整理し、主として乳製品の包装を設計する立場から、グローバル時代の包装開発の課題について考えてみたい。</p>	<p>株式会社 明治 研究企画部 参与 太田 進 氏</p>
15:45 17:20	<p>パネルディスカッション</p> <p>「グローバル時代における次世代包装戦略」</p> <p>【司会進行】 株式会社 パッケージング・ストラテジー・ジャパン 取締役社長</p> <p>【パネリスト】 デロイト トーマツ コンサルティング株式会社 グローバルマネジメントインスティテュート パートナー 株式会社 クラウン・パッケージ 社長付研究開発室 室長 兼 全社デザイン統括 トタニ技研工業株式会社 代表取締役社長 株式会社 明治 研究企画部 参与 NPO法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事 住本技術士事務所 所長</p>	<p>有田 俊雄 氏(企画委員)</p> <p>國分 俊史 氏</p> <p>八木野 徹 氏 戸谷 幹夫 氏 太田 進 氏 後藤 敏彦 氏(企画委員) 住本 充弘 氏(企画委員)</p>

開催要領

- **日時**：平成27年3月11日(水) 10:00~17:20
- **会場**：(公社)日本包装技術協会 A会議室
東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F
- **参加費**：会員 18,360円(消費税8%、テキスト代含む)
* 同時に3名以上でお申込みの場合には
割引価格として1名15,120円
一般 27,000円(消費税8%、テキスト代含む)
- **定員**：80名

会場案内



- 東京メトロ日比谷線・東銀座駅下車徒歩5分
- 都営地下鉄浅草線・東銀座駅下車徒歩10分

申し込み方法

- 本紙申込書に必要項目を全て記入の上、FAXにてお申込みください。
協会HPからのお申込みも出来ます。
協会HP：<http://www.jpi.or.jp>
- 申込みされた方には後日参加証と請求書をお送りします。
- 開催1週間前からの参加費の払い戻しは致しません。
申込みされた方がご都合の悪い場合、代理の方の出席は差し支えありません。(当日、名刺をご提出いただきます)

お問合せ並びにお申込み先

公益社団法人日本包装技術協会
包装近未来シンポジウム係 担当：竹内
〒104-0045
東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F
TEL:03(3543)1189/FAX:03(3543)8970
e-mail: takeuchi@jpi.or.jp

【個人情報の取り扱いについて】

1. 個人情報は「包装近未来シンポジウム」の事業実施に関わる資料等の作成、並びに当会が主催・実施する各事業におけるサービスの提供や事業のご案内のために利用させていただきます。なお、作成資料は開催当日、関係者に限り配布する場合があります。
2. 参加申込みによりご提供いただいた個人情報は、法令に基づく場合などを除き、第三者に開示・提供することはありません。

第2回包装近未来シンポジウム参加申込書

公益社団法人日本包装技術協会 竹内行 FAX. 03-3543-8970

No. _____

会社名					
所在地	(〒)				
電話			FAX		
参加者	氏名		所属 役職		e-mail
	氏名		所属 役職		e-mail
	氏名		所属 役職		e-mail